

第1回 小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会
まちづくり部会・新交通システム部会（合同会議）

議事録

日 時：2015年11月5日（木）13:30～15:15

会 場：まちなか交流センター研修室1

出席者：（委員）28名出席、7名欠席
（オブザーバー）4名出席

事務局：小山市都市整備部都市計画課

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

4. 委員の紹介

5. 規約の確認

6. 正副委員長、部会長の選出

委員長に永井護氏が互選され、副委員長に大森宣暁氏と豊川斎赫氏が指名された。

また、まちづくり部会長に豊川斎赫氏、新交通システム部会長に大森宣暁氏が指名された。

7. 議事

事務局：ここからの進行は永井委員長にお願いしたい。

委員長：小山市まちづくり総合交通戦略の一番の根底になっていることは、今ある施設や空間をうまく使って、その中で軌道系を強くしていくことである。今年度は、当面とりかかれる事業として、高岳引込線の活用と沿線のまちづくりを考えていくことになる。

交通システム部会では、既存のストックを活用し、どうすれば安く実現できるか、どういう需要に対応させるのか、どこに焦点をあてるのかが重要になる。また、まちづくり部会では、周辺の土地利用や沿線の地域住民のニーズへの対応、まちの構造を広域的に考えたときにどういう機能が求められるのか、議論をしていただきたい。全国的にみてもあまり前例の無い取り組みなので、皆さんの意見をいただきながら進められたらと思う。会議の公開・非公開について、事務局の見解を聞きたい。

事務局：個人名等を除き、会議は原則公開としたい。

委員長：それでは原則公開として進めていく。事務局に資料の説明をお願いしたい。

(1) これまでの経緯等

・小山市まちづくり総合交通戦略について

A 委員：高岳引込線沿線の地域分断の解消とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

事務局：現時点では、軌道法に基づく事業とするか、鉄道事業法に基づく事業とするかは、まだ確定してない。当初、軌道法に基づく事業を考えていたが、運営面など考えると限定すべきでないと考えている。今後、関連法規等も検討していきたい。地域の方からは、高岳引込線による南北の分断があると伺っているが、踏切にするか信号にするか、路面をアスファルトにするのかなどは今後の検討課題としたい。

・検討地区の概況

～特に意見無し～

・新交通システムとは

B 委員：鉄軌道を想定していると思うが、BRT などの事例があれば追加で紹介していただきたい。

委員長：路面系の交通システムも含めて考えるかということにもつながる質問である。

大森副委員長：既存資源の活用はレールの活用を意図されていると思うが、場合によっては、幅広く検討するのであれば、もう少し広めに考えてもよいと思うがどうか。

C 委員：鉄軌道を活用するのであれば、BRT は除外する必要がある。既存の引き込み線を活用する方向を前提とするのであれば、議論が発散しなくてよい。

委員長：軌道を使いながら路面も使う併用軌道もある。周囲の空間を活用することがないわけではない。

C 委員：蓄電池式は開発段階とあるが、台湾などでは実際に走行している。日本では鉄道総合技術研究所や川崎重工業が開発・製造している。

委員長：概ねのイメージとしては軌道を使う方向と思うが、交通部会で整理してほしい。事務局でも対象を明確にしてほしい。

D 委員：何が決まっていて何を決めようとしているのか。高岳引込線を利用させてもらうのか。東光高岳が製品を輸送するのであれば、レールは残さないといけない。

事務局：高岳引込線を活用したい。ただし、年に数回だが東光高岳様が今後もレールを使っていく。さらに、公共交通としても活用したい。以上のことが前提としてある。

委員長：今の機能は残してさらにプラスすることになる。

E 委員：次回で構わないので概算費用を提示していただきたい。

事務局：概算費用は一般的な事業費として了解いただければ今年度に提示は可能である。

（２）討議の論点と進め方について

F 委員：多極ネットワーク型のコンパクトシティを目指す小山市であるが、広い小山のなかでどこに力をいれて、この地区がどういう方向性で魅力を高めていくのか、次回のまちづくり部会でもう少し説明していただければと思う。

事務局：次回のまちづくり部会で資料を用意する。

C 委員：鉄軌道を前提にするのかどうか、絞らないと議論が発散しかねない。今あるレールを前提として、どのようなシステムにするのか。選択肢を広げるほど費用対効果などの検討の精度が落ちる。絞り込むことでより精緻な議論ができる。

委員長：交通システムはどの範囲までの需要を想定するのか。また、まちづくりはどこまでのプロジェクトを対象とするのか。交通・まちづくりの両部会で議論してほしい。

G 委員：まちづくり部会を早く開催してまちづくりが求めるものを出すことにより、交通システム部会の検討の方向性がおのずとまとまっていく。高岳引込線沿線におけるまちづくり関係の構想はあるのか。

事務局：今現在、当地区に関連するまちづくりの計画は無いことから、新たなまちづくりの構想が必要と考える。小山市全体のまちづくりの構想における当地区の位置付等については、別途整理して提示したい。

豊川副委員長：まちづくり部会の名簿でメンバーとなっている行政職員の構成等を見ると、議論すべきテーマがうっすらと見えてくる。高岳引込線沿線には大きな企業が集積し、ニュータウンもあり、地域の活性化も課題となっていることから、関連する行政にも参加いただき議論を深めていく必要がある。昨年度の会議に比べると、厚めの人選になっている。まちづくりについて忌憚のない議論ができればと思う。当地区のエネルギー関連の取り組み等も紹介しながら、スマートコミュニティや高齢者にやさしいまちづくり等についても議論できればと思う。

委員長：まちづくりと交通を結びつけることが一番大事である。まちづくりは幅広い話になると思うが、交通規模に見合ったまちづくりのプロジェクトを検討することになる。一方で、公共交通が沿線のまちづくりにインパクトを与え得る。次回の検討委員会は、土地利用と交通需要をつきあわせることになる。各部会で検討する範疇を明確にして議論してもらいたい。

H 委員：まちづくり部会で議論したことを交通部会に情報提供してもらった上で、次回の部会を開催できたらよい。

I 委員：まちづくりの方向性によって、交通の方向性が決まってくる。まちづくりが決

まらないと、それに合った新交通を選択することができない。

C委員：レールを活用することが前提であれば、ある程度、交通システムの方向性は絞られる。その上で、需要に応じて適切なシステムを選択することになる。交通部会でもまちづくり部会と並行して検討することは可能と考える。

委員長：まちづくりから交通を考える方法と交通からまちづくりを考える方法の二つの考え方があある。あながちまちづくりの検討が先行してスタートしなければならないとも言いきれないのではないか。交通からみてこの規模のまちづくりが良いのではという方向もあり、微妙なところである。理想はまちづくりから必要な交通システムを検討することだが、実現性や経済性の議論もあるため微妙な関係である。とりあえず各部会でできることを議論してはどうか。

8. その他（今後の予定など）

事務局：まちづくり部会は12月中旬に開催したい。交通部会は、まちづくりの部会の開催を踏まえて、1月下旬を開催予定としたい。場合によっては開催日がずれこむ可能性もあるがその際は事前にお知らせしたい。

9. 閉会

事務局：以上をもって、第1回小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会まちづくり部会・新交通システム部会（合同会議）を終了する。

以上